平成 31 年度（令和元年度） 全国学力・学習状況調査の結果について

令 和 元 年 9 月
枚方市立長尾中学校

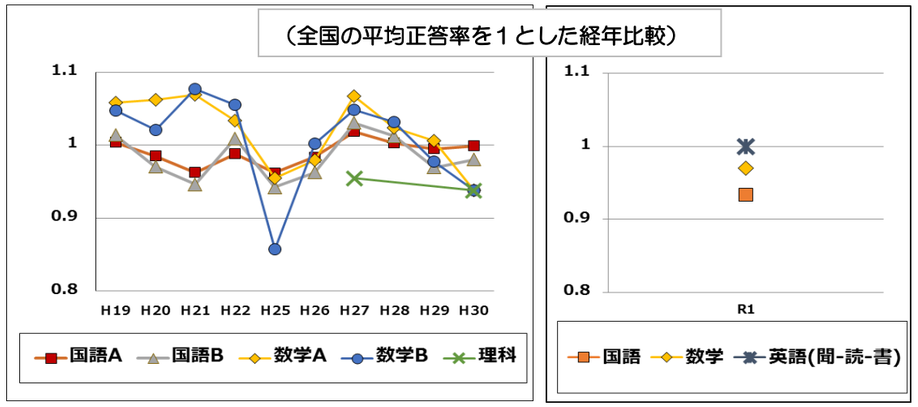
文部科学省が今年４月に実施した、平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、生徒の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

【全体概要】

※調査結果について
教科や出題範囲が限られていることから、
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。

学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較（対全国比）をお知らせします。
（※今年度より、Ａ・Ｂ問題が一体化されましたので、グラフを分けています。）



＜学力調査結果の概要＞
○国語について
→自分の考えを書いて表現する力を問う問題に関しては全国平均、府平均を上回る成果が見られた。しかし、長い文章を読み答えなければならない問題に課題が見られた。
○数学について
→　四則演算等を用いた基礎力を問われる問いに関しては全体的に良好な結果であった。しかし、解き方を説明しなさい等の記述式の問いに関しては課題がみられる。また、分野別の結果は、図形は良好であり、関数に課題がみられた。
○英語について
→今年度実施された「話すこと」の問題では、短答式の問題に課題が見られた。しかしながら、与えられたテーマについて考えを整理し，まとまりのある内容を話すことができる設問では、正答率が府平均に比べ 12.3 ポイント高く、間違いを恐れずに話そうとする意欲が大いに感じられた。

※本調査は、平成 19 年度から実施されています。
※平成 23 年度は中止（東日本大震災）、平成 24 年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。
※英語の「話すこと」調査は、全国で実施していない自治体がある等、【参考値】として公表されることから、対全国比は掲載していません。

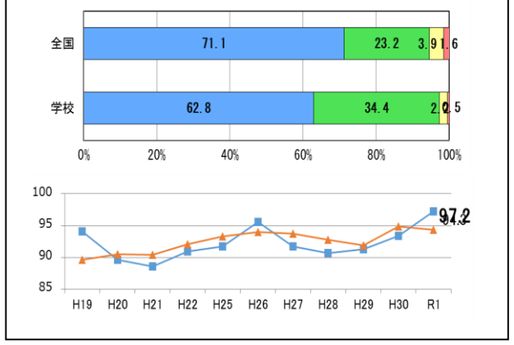
質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「あてはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は 100 にならない場合もあります。

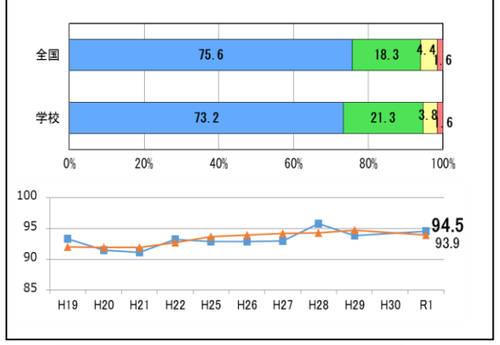
質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。

全国
本校

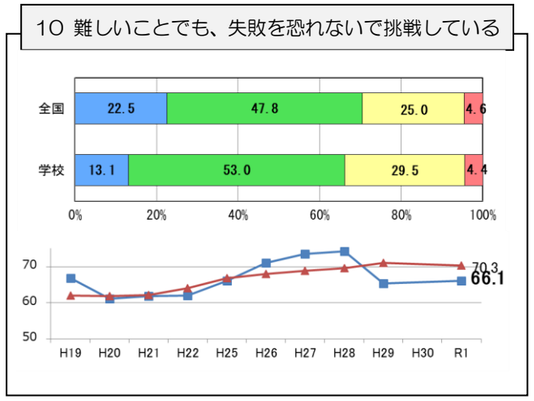
16 人の役に立つ人間になりたい



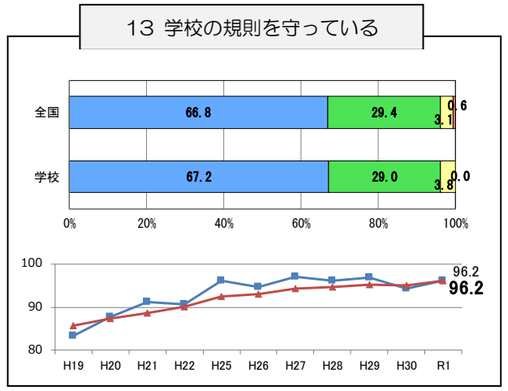
9 ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある



10 難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している



13 学校の規則を守っている



＜質問紙調査結果の概要＞
○生活習慣について
→肯定的な回答が全国比に対して、同じかやや下回る結果でした。
○自分自身について
→肯定的な回答が全国比に対して、同じか、やや下回る結果でした。
「人の役に立つ人間になりたい」の肯定的回答は全国比を大幅に上回る結果でした。
○家庭学習について
→肯定的な回答が全国比に対して、下回っています。特に「学校の授業以外で、家で１時間以上学習をしている」に対する肯定的回答は全国比 4.8 ポイント下回る結果でした。
○授業改善について
→肯定的な回答が全国比に対して、上回っていました。特に英語の授業で「即興で自分の考えや気持ちを伝え合う」の肯定的回答は全国比 2.6 ポイント上回る結果でした。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

【詳細について】

教科に関する調査

＜国語＞

成果や課題があった設問

【成果】

文章に表れているものの見方や考え方について自分の考えを持つ。

１三　「みんなの短歌」に掲載されている内山さんの短歌、森川さんの短歌、松田さんの短歌の中から一首を選び（どの短歌を選んでもかまいません。）、その短歌を読んであなたが感じたことや考えたことを、【選者より】を参考にしながら、次の条件一と条件２にしたがって書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件一　選んだ短歌の中の言葉を取り上げて、想像できる情景や心情を書くこと。

条件２　条件一で想像した内容について、あなたが感じたことや考えたことを具体的に書くこと。

	正答率	無解答率
本校	90.2	1.6
全国	91.2	1.7

（考察）

記述式の問題であったにもかかわらず無解答率が低く、正答率が高かった。

３年間毎月川柳に取り組むことで韻文への慣れがあった。また俳句等で鑑賞文を書いた経験が生かされた。さらに振り返りなど、日々の授業の中で自分の意見を書いたり、交流したりする場面を設けた。その結果「自分の考えを持つ」ことができたと考えられる。

【課題】

文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを持つ。

１二　「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている、弁当の魅力として適切なものを、次の１から５までの中から全て選びなさい。

１　インターネットを利用して、様々な国の弁当を取り寄せることができる。

２　主食、主菜、副菜などが収まっており、栄養バランスのよい食事をとることができる。

３　ボックスランチやカスクルートなどとは異なり、戸外に持ち出して食べることができる。

４　いろいろな料理が詰められているので、食べ物の風味を保つことができる。

５　様々なデザインの弁当箱があり、自分の好みのものを選ぶことができる。

	正答率	無解答率
本校	52.2	0.0
全国	61.5	0.1

（考察）

評価の観点から見ると全体的に「読む」分野の問題が弱い。それは文章を理解していないというよりは、問題になっている語句の前後しか読まない「飛ばし読み」をしていると推測される。その原因としてＳＮＳによる短い文章のやり取りに慣れてしまったことがあげられる。ここを補うように授業では音読・黙読指導や文章の前後関係を丁寧におさえて指導していく。

＜数学＞

成果や課題があった設問

【成果】

連立二元一次方程式を解く。

2　連立方程式 $\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$ を解きなさい。

	正答率	無解答率
本校	76.1	1.6
全国	70.1	5.1

（考察）

２年時に学習した連立方程式において、基礎、基本を徹底し学習した成果が現れた問題であった。無解答率が低いことからも意欲的に問題に取り組んだことが見てとれる。今後も基礎知識を養わせるとともに、応用力も身に付けさせたい。

【課題】

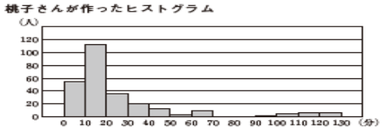
ヒストグラムの特徴を基に説明する

（２）二人は，実施したアンケートをもとに，１日あたりの読書時間について，次のような表とヒストグラムにまとめました。桃子さんが作ったヒストグラムでは，例えば，１日あたりの読書時間が30分以上40分未満だった生徒が20人いたことを表しています。

航平さんが作った表

	平均値	最大値	最小値
１日あたりの読書時間（分）	26.0	120	0

桃子さんが作ったヒストグラム



二人は，上の航平さんが作った表と桃子さんが作ったヒストグラムについて話し合っています。

航平さん「１日あたりの読書時間の平均値が26.0分だから，１日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いといえそうだね。」
桃子さん「でも，ヒストグラムを見ると26分ぐらいの生徒が多いとはいえないのではないかな。」

桃子さんが作ったヒストグラムを見ると，航平さんのように「１日あたりの読書時間の平均値が26.0分だから，１日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いといえそうだ」という考えは適切でないことがわかります。その理由を，桃子さんが作ったヒストグラムの特徴をもとに説明しなさい。

	正答率	無解答率
本校	39.1	23.9
全国	40.8	21.3

（考察）

無解答率が４人に１人という非常に高い割合からもわかるように、問題の本質を理解する力と数学的な用語を用いて説明する力が不足している。自分の考えや思いを言葉や文字で表現する力は日々の生活や学習で培われるものなので、発表や話し合いの機会を増やすことで表現力を養っていきたい。

【成果】

天気予報を聞き、適する曜日を選ぶ

3 （放送問題）
アメリカでホームステイ中のあなたは，天気予報を聞きながらピクニックに行く計画を立てています。ピクニックに行くのに最も適しているのは，何曜日でしょうか。下の１から４までの中から１つ選びなさい。

1 Thursday

2 Friday

3 Saturday

4 Sunday

	正答率	無解答率
本校	84.2	0
全国	80.7	0.2

（考察）
学習指導領域の「聞く」ことに成果が見られた。まとまりのある英語を聞いて，必要な情報を理解することができるかの設問の正答率が特に高かった。日頃の授業の中で、ある程度まとまった英文のプレゼンテーションを個々の生徒にさせ、それを聞いた生徒がその内容を理解するといった取り組みが、成果に結びついていると考えている。今後も、できるかぎりプレゼンテーションをする機会を増やしていきたい。

【課題】

与えられた情報に基づき、説明する英文を書く

（3）次の表の①から③は，ある女性に関する現在の情報を示しています。これらの情報を用いて，彼女について説明する英文をそれぞれ書きなさい。

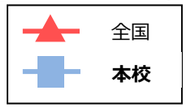
①	出　身	Australia
②	住んでいる都市	Rome
③	ペット（pet）の有（O）無（×）	×

	正答率	無解答率
本校	43.7	3.3
全国	55.4	7.9

（考察）
学習指導領域の「書く」ことにやはり課題が見られた。与えられた情報に基づいて，３人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができるかの設問の正答率が低かった。人称に応じた一般動詞の変化については、1 年次の学習内容にも関わらず、あいまいなままの理解にとどまっている生徒が多いという表れであるので、3 年間の総まとめ問題集に取り組ませる等、既習事項について再確認する機会を増やす必要があると考える。

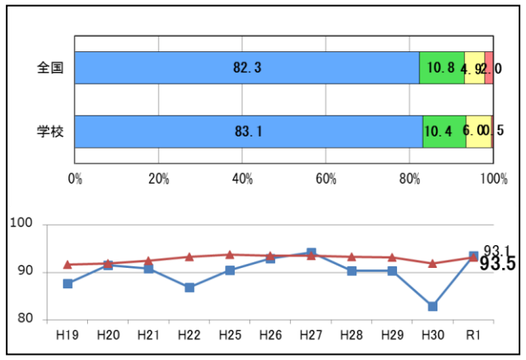
質問紙に関する調査

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「あてはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は 100 にならない場合もあります。

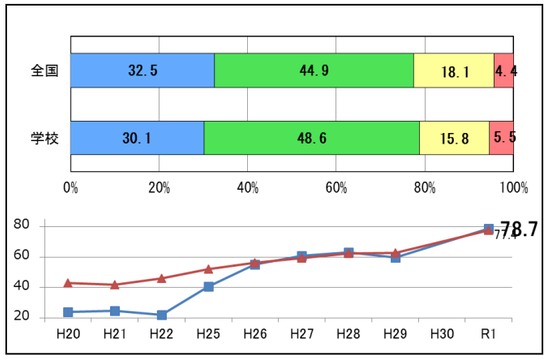


【成果のあった項目】

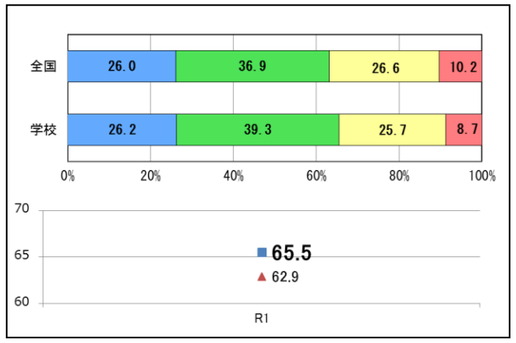
1 朝食を毎日食べている



45 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている



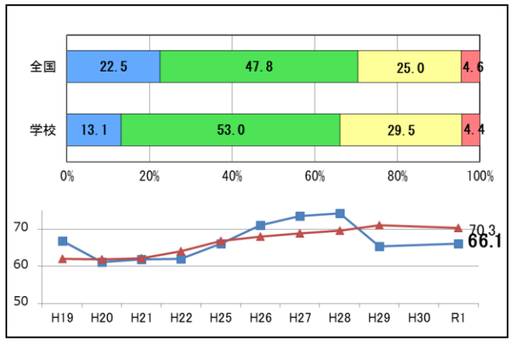
62 原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思う



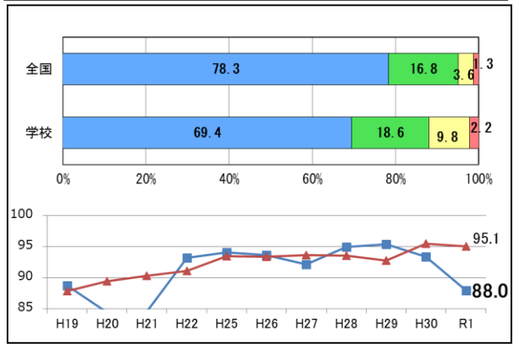
（考察）
生活習慣確立と学力には強い相関があることから、これまで以上に家庭との連携を図り、学力向上につなげていきたいと思います。今回「朝食を毎日食べている」項目について昨年度比、大きな改善がみられました。
授業改善の取組みを進めており、「国語の授業で、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている」や「原稿などを準備することなく、（即興で）自分の考えや気持ちを伝え合う活動が行われていたと思う」という設問で、顕著に改善がみられました。学力向上担当者を中心に、主体的で対話的な授業が行われており、生徒が能動的に授業に向かう姿勢がみられます。

【課題が残った項目】

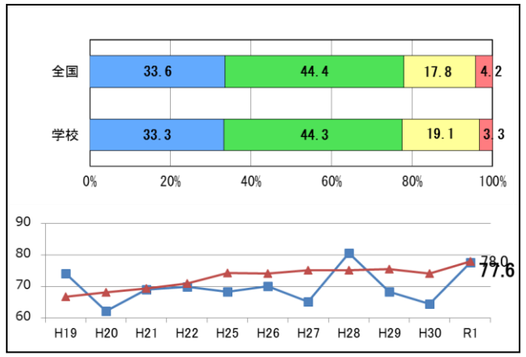
10 難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している



15 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う



2 毎日、同じくらいの時間に寝ている



（考察）
「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」という設問に対し、昨年に引き続き、前年比下降しました。生徒指導主事を中心に、教員一同、生徒の内面に迫る積極的な生徒指導、成長を促す指導を実践していきます。また、「難しいことでも失敗を恐れないで、挑戦している」という設問でも全国比を下回る状態でした。なかまづくりの取組みにおいて、生徒が安心して学べる（挑戦できる）学級集団づくりを進めていきます。
「毎日、同じくらいの時間に寝ている」では、前年比、大幅な改善がありました。しかし全国比を下回る結果でした。引き続き望ましい生活習慣定着を促す指導を行っていきます。

分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

（1）授業改善について
「だれもが生き生きとした授業づくり」を今年度の研究テーマとして設定しています。質問紙調査では、授業に主体的に取組む設問について、肯定的回答の割合が上昇し、授業改善に取組む成果が一部でみられました。引き続き、授業づくり研究部を中心に組織的に研究に取り組んでいきます。
教科に関する調査において全般的に無解答率が全国比より低く、本調査に対して意欲的に取り組む姿勢がみられました。生徒一人ひとりの学びに向かう力の育成に取り組んでいきます。
自分の考えや気持ちなどをまとまった文章に書き出すことが、各教科共通の課題であるため、各授業のふり返りにおいて書くことを基本とし、日ごろから「書くこと」に慣れさせ、まとまった文章を書くことができる力をつける取り組みをすすめていきます。

（2）学習規律について
日ごろからどの授業でも「チャイム着席徹底」「忘れ物をしない授業準備」「提出物期限厳守」といった指導を行っています。
今後も継続して学習規律の定着を図り、「だれもが生き生きとした授業」をするための学習環境づくりに取り組んでいきます。

（3）家庭学習について
計画的に宿題や家庭学習の課題を設定することにより、学習習慣のいっそうの定着を図っていきたいと思います。また、学習支援コンテンツの活用も促し、生徒自身が「つけたい力をつけるための家庭学習」の充実を図っていきます。